

高齢者らのコミュニケーションの場にしようとして、今治市の今治東中等教育学校の生徒が13日、同市玉川地域のNPO法人玉川サイコーと地域食堂を初めて開いた。玉川中学校の

生徒も運営に加わり、ご当地グルメ「玉川ダムカレー」を住民ら約50人に振る舞うなどして交流を深めた。

食でつなぐ地域の笑顔



参加者と玉川ダムカレーを食べ、談笑する今治東中教校生(左)

今治東中教校生らが「食堂」 高齢者楽しむ場に

今治東中教校の総合的な学習の一環で、アートや農業、観光、福祉の4班が同市玉川地域の活性化に取り組むプロジェクトの一つ。福祉班は1人暮らしの高齢者が多いといった課題を踏まえ、玉川サイコーなどと地域食堂を準備し

てきた。

13日は同市玉川町三反地の玉川公民館で、中教校の3年生15人がスタッフとして活躍。「こんにちわ」と住民らを元気づけようとした。地元産の野菜などを使ってカレーを調理し、地域の名所・玉川ダム湖の形をした器に盛りつけた。

玉川中生は7人が郷土芸能の龍岡万歳(りゅうおかまんざい)を上演し、11月1日に



郷土芸能の龍岡万歳を披露する玉川中生

同校の文化祭で披露するとアピール。同校3年の羽藤悠佳さん(14)は「今、龍岡万歳をしているのは自分たちだけと聞いている。しっかりとつないでいきたい」と話した。

かつて龍岡万歳を子どもと習ったという同市玉川町龍岡上の森保子さん(77)は「懐かしいね。知っている人とも久しぶりに会えた」と笑顔だった。

住民らと談笑しながら食事を共にした今治東中教校の佐藤祥子さん(14)は、「皆さんが『久しぶり』『最近どう?』などと会話をすることが本当にうれしかった。やって良かったと充実した表情を見せた。

玉川サイコーの森譲寛理事長(36)は「高齢の方がなかなか外に出る機会がないと聞く。地域として、みんなで食事をして楽しむ場づくりを進めたい」と先を見据えた。

(西尾寛昭)